

お金の不安を先手で潰す AIを使ったキャッシュフロー 予測の始め方

月末の「後追い管理」から脱却するための、
クラウド会計×生成AI の活用ガイド

この資料の要点

- ・資金繰り管理が「後追い」になる根本原因は、データの散在と更新の手間にある。
- ・会計ソフトの入出金データ＋生成AIで、3～6か月先の予測を定期生成できる。
- ・「予測の作成はAI・判断は人」という役割分担がスモールスタートの鍵。

なぜ資金繰りは「後追い」になりがちなのか

資金繰りの把握が遅れる理由は、多くの場合**仕組みの問題**です。典型的な課題は3つに集約されます。

- ・**データが散在している**：銀行口座が複数あり、全体像の把握に各ネットバンキングを個別確認しなければならない。
- ・**更新が手作業で続かない**：Excelの資金繰り表を毎月更新するが、繁忙期は後回しになり、気づいたら3か月ぶりの更新になっている。
- ・**予測が「感覚値」になっている**：売掛・買掛のサイクルを考慮した予測ではなく、なんとなくの感覚で資金判断をしている。

AIで変えられる3つのポイント

① データの自動集約

freeeやマネーフォワードクラウドは銀行口座・クレジットカードと自動連携し、入出金を日次で集約します。手動でデータを集める作業がほぼゼロになるため、「更新が続かない」問題が解消されます。

② 予測の自動生成

集約されたデータを生成AIに渡し「今後3か月の入出金予測を作成してください」と指示するだけで、売掛・買掛のサイクルを踏まえた予測の叩き台が出てきます。

生成AIは「今見えているデータから、最もありうる未来を素早く描く」ツールとして使う。

③ 例外の自動検知と通知

「残高が〇〇万円を下回ったら通知」といった条件をMake・n8nなどで設定し、担当者が毎日確認しなくても異常値を自動で拾えます。

スモールスタートの3ステップ

- ・① データを1か所に集める：クラウド会計ソフトを導入するか、既存のExcel表に入出金・売掛・買掛を網羅的に入力し直す。完璧なデータより「揃っているデータ」が先決。
- ・② 生成AIで3か月先の予測を作ってみる：直近3～6か月の入出金データをコピーし「来月～3か月後の資金繰り予測を作成してください。回収サイト30日、支払いサイト60日で仮定してください」と指示する。叩き台が出てきたら実際の予定と照合して修正する。
- ・③ 月次でサイクルを回す：毎月末または月初に同じ手順を繰り返し、「前月の予測と実績がどれだけ乖離したか」を確認しながら精度を上げていく。

人が担うべき役割

AIはデータから導ける仮説を速く作ることが得意です。一方、次の判断はAIに任せてはいけません。

- ・大型受注・解約・季節変動などの前提条件の入力：AIは既存データの傾向を延長するため、例外的な事象は人が加える必要がある。
- ・資金不足時の対処の意思決定：借入交渉・支払い猶予依頼などは経営判断として人が行う。
- ・予測の妥当性チェック：AIが出した数字を最終確認する習慣を持つ。

よくある質問

Q. 会計ソフトを使っていなくても予測できますか？

A. Excelの入出金データがあれば、生成AIに渡して予測の叩き台を作れます。ただしクラウド会計と連携すると精度・継続性が格段に上がります。

Q. AIの予測はどれくらい信頼できますか？

A. あくまで「データの傾向を延長した仮説」です。「予測の作成はAI・判断は人」という役割分担が適切です。

Q. 何か月先まで予測すべきですか？

A. 最低3か月、理想は6か月先を目安にしてください。3か月先が見えると手を打てる時間的余裕が生まれます。

株式会社DnD (DnD Inc.)

会計データの集約からキャッシュフロー予測の自動化まで、業務の仕組みづくりをご支援しています。

ご相談・お見積りは無料です。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>